寝屋川高校　令和８年度 第２回学校運営協議会(全日制部会)

【日時】　令和８年 10 月 30 日（金）　14:00～16:00

【場所】　寝屋川高等学校　　情報配信室

【出席者】柴　浩司(会長)・奥田　二三夫(副会長)・若林　勲・森本　彰・坪井　泰憲・運営委員会教職員

【次第】

１．授業見学説明

２．授業見学　　① 理科（生物基礎）　② 数学（数学 A）　③ 英語（英文読解演習）

３．会長挨拶

４．校長挨拶

５．確認　「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について

６．報告　・授業アンケート（７月実施）　・防犯カメラの運用開始　・「文理探究科」に向けて

〈授業アンケート結果の分析と課題〉

・平均値は 4 点満点中 3.54。近年は高水準を維持。

・全教科で項目 8「授業への興味関心」の数値が相対的に低い傾向。

・項目 1「真面目に授業を受けている」は全教科で最も高く、寝屋川高校生の学習規律の高さがうかがえる結果。

〈校内安全管理と防犯カメラの運用報告〉

・校門および更衣室入り口付近への防犯カメラ設置済。

・PTA 会長・PTA 組織と協議のうえ許可を得て、当初の無線設置案を通信安定性の観点から有線へ切替。

・運用規程は事務長が他校事例を収集し整備済。

〈文理探究科設置に向けた進捗と構想〉

・2029 年度（令和 11 年度）より「文理探究科」設置を計画。

・キーワードは「本物に触れ、自分を知る、夢を見つける」。

・活動形態は校内のアルファと、企業・大学と連携した校外での集中的活動であるベータを想定。

・令和 10 年度に先行実施、令和 11 年度に本実施。

・来年度は一部大学・企業との連携発表会を予定。令和 11 年度以降は予算確保により連携先拡大予定。

７．協議

委員による授業参観所見では、欠席が少なく、生徒が顔を上げ講義に集中し、ペア・グループ学習で積極的な対話が見られることが確認された。授業力向上の取組みとしてどのようなことをしているのかという質問に対し、学校側は１学期・２学期それぞれ１回の相互授業見学、教科内外の研究討議、他校公開授業への参加など多角的に展開と回答。ペアワーク・グループ学習については、受け身が減り対話が活発化した点が評価される一方、特定の生徒に発言が偏る傾向への懸念が示され、役割分担の工夫など全員が学べる場づくりが必要とされた。基礎基本の徹底と他教科と関連づけた探究的アプローチの重要性が再認識された。プロジェクターの視認性に課題が生じる場面も指摘され、改善の工夫余地が示された。授業内の探究的学びの本質として、生徒の「引き出し」を増やすことが強調された。ペア・グループ手法導入の目的は眠気対策などの安易な理由ではなく、深い学びへの接続を明確化し、導入後のフォローまで含めた教師の指導力が鍵であると整理された。

ペア・グループワークは「楽しい」「眠いから」といった即物的理由ではなく、目的と「その後（何を深めるか)」を明確化する指導が不可欠とされた。

「進路」という語の捉え方については、大学進学に矮小化せず「20 代 30 代の将来の幸せやキャリア形成」と置き換え、長期視点で考えるよう導くべきであり、その前提として生徒と教師の信頼関係が重要。「進路」を人生の開拓プロセスとして捉える観点は学校側も共感し、今後の方針に反映する意向が示された。委員からは、生徒が何を期待して入学したかを踏まえ、探究や部活動・行事を「寝屋川高校の大きな売り」として軌道に乗せ、公立高校として濃い人間関係を築く場として成功させるべきとの意見が出された。